

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793600034		
法人名	社会福祉法人 伸芽福祉会		
事業所名	グループホーム マイフレンズ		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武202番地2		
自己評価作成日	平成30年 2月 23 日	評価結果市町村受理日	平成30年 6月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4793600034-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 3月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族との信頼関係づくりをしている。 ・母体の保育園園児との交流機会がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は静かな住宅街の中にある平屋の一軒家で、大きな窓から緑豊かな景色が見える。法人が運営している保育園との連携により、子どもとの交流が積極的に行われている。利用車、一人ひとりに合った対応方法を職員全員で共有しケアの統一を心がけている。また、利用者個々の特性に寄ったケアの実践を意識している。</p> <p>事業所の共有スペース、居間兼食堂には波型のテーブルを設置し、車いすの方も座りやすいようにしている。利用者の好きなテレビをつけたり、音楽を流したり、居心地の良い空間となっている。廊下の壁には交流のある保育園児からプレゼントされた作品や、季節に合わせた折り紙や利用者で共同製作したちぎり絵等を掲示している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し職員と毎日共有する。理念に基づいてケアに取り組んでいる。	管理者を中心に作成した介護理念の「人格を尊重、新しい生活を支援すること…」に基づいた支援を心掛けている。朝礼時には法人理念と共に唱和し、職員は意識を持ってケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事になるべく参加できるよう社協等から情報をもらい、利用者さんの状況を見ながら参加するよう努力している。	法人の保育園児との交流や、地域の行事に出来るだけ参加するようにしている。地域行事の情報は社協等からもらっている。事業所の行事お知らせは地域に出向いたり、広報でしらせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事の参加、交流を深められるよう努力し、より多くの方に認知症を知って頂き理解を求めているよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、意見交換、助言を頂き少しでもサービス向上に活かせるようにしている。又、実践で取り入れた活動等を次の会議で報告し、アドバイスをもらう。	運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に、利用者、家族、町職員、社協、民生委員、町議員等が参加して行われている。会議では事業所の活動報告や事故、ヒヤリハット報告などが行われている。議事録は玄関先に公表している。	運営推進委員会の報告書の様式を、参加しなかった人が見ても、わかりやすく統一することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会が情報交換の場とし連携を図っているが、その他でも役場、社協と密に連携を取りながら、入居者様のサービス向上に繋げられるよう取り組んでいる。	毎月、地域包括支援センターを訪問したり、運営推進会議にも参加してもらっている。社協の職員も運営推進委員となっているため、相談などしやすい関係である。また、研修の案内などの情報ももらっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束ケアの経過報告と合わせ職員間で話し合いを設け確認、評価を取っている。なるべく拘束のないケアの方法を見つけ実施するよう心掛けています。利用者様の状況によって、一時的にリビングのドアの施錠を行う時がある。	外部研修に参加したり、ミーティング時に身体拘束をしないケアの実践について話し合っている。拘束経過報告や拘束をしなくて済む方法などが話し合われ意見交換し、最善の方法を考えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様一人一人のケアに対する職員の不安を聞き入れながら適切な支援が行われるようミーティング等を通し話し合いの場を設けている。今後は外部での研修に全員が参加できるように取り組みをしていきたい。	虐待等についての研修を受講し、一人ひとりの尊重について意識づけている。認知症について理解を深め、虐待防止の徹底に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に対象の利用者様の支援を行っていて、分からない事は直接後見人と連絡を取り合っている。職員間でも制度を学ぶ機会を設けるなどスキルを身につけられるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行っているが、疑問点はその都度説明を行い、理解を求めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様の話を聞き、意見や要望が言えるような関係づくりに努めている。又、意見箱を設置している。	利用車からは日常の会話の中から聞き出している。意志の表出が難しい方には、表情などから読み取っている。家族の面会が頻繁にあるので、面会時に職員からも話しかけ、意見や要望を言いやすくするようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り等で意見を聞き、どう対応すればいいか、実践できるよう努めている。	職員からの意見は月1回の職員会議で聞いている。これまで職員から掃除機購入の要望があり購入に至っている。外部での研修会などの受講希望等があれば事業所が受講料を全額負担しているが、受講希望の職員がいなかった。	研修計画や堅守に行きやすい体制づくりが望まれる。
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の勤務状況を把握するようにしている。問題点があれば、解決の方法を話し合ったり、他からの意見を頂いたりして環境を整えている。	職員間のコミュニケーションもとれ、勤務シフトや希望休も取りやすい。働きやすい職場を目指し、休憩時間など環境を整えている。ミーティング時もテーマを決め勉強会をしたり、研修費用は全額負担してくれる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験者からの助言や資料等から引用したり介助を行う上で、必要な事を知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修や社協の研修に参加し、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人もしくは家族様と話し合い、双方の希望、要望に応えるようにしている。本人主体の安心した生活が送れるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、困っている事や要望が無いか聞き、それに応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の要望を聞き、その方にあったサービスが受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々一緒に過ごす中で、話し相手や作業を一緒に行う等、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に支え合う立場だと思うので、状態の変化や様子を御家族へ面会時や電話で伝えている。数少ないが家族様と共に過ごせる時間を設け、情報交換やお喋りの場としている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方は散歩や地域行事の際、顔見知りの方と会って会話や会釈などしている。地域外の方は家族の協力を頂き、外出や外泊などを行っている。見学や面会しやすい施設づくりをしている。	家族の今日利用で自宅に帰ったり、外出、外食などに出かけている。職員と近隣を散歩したり、地域の行事に参加しているので顔なじみの方も増えてきている。地域に根差した施設となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やドライブ等一緒に行く機会を設けている。また活動を通し関わりが持てるよう仲立ちし、話題の提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々ご本人や家族に会い、話をしたり相談にのることがある。退所先の相談援助を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者様の状態を確認し、意向の把握に努めている。	利用車の日々の会話の中から把握し、外出支援が好きたった方が、あまり出かけたくない場合は無理強いないようにしている。言葉で主訴出来る方には、声掛けし、難しい方には表情などから読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、会話の話題にしたり、日課に取り入れれたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が普段の様子を把握し、日課にしていることを誘ったり、出来る事を職員と一緒にしたりしている。無理強いはいしないよう、努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族からの意向と職員からのケアのあり方を出し合い計画を作成している。	担当職員のケアチェック表を基にモニタリングを行い、担当者会議では本人、家族の意見も取り入れた介護計画になっている。日々の日誌や記録の書き方にも介護計画に繋がるような工夫がみられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で毎日、記録をとり日々の状態観察に努めている。必要があればケアの見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は入所施設としての運営ではあるが今後は共用デイやショートステイ等の取り組みも検討していきたい。医療ケアが必要な方は訪問診療を活用し医師との連携をとりながら安心して生活が送れるように体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理髪ボランティア、訪問診療や病院との連携を取っている。 民生委員や広報からの情報を取り入れ、地域行事への参加を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調変化があれば、かかりつけ医師、家族へ連絡や情報提供している。	利用者・家族の希望で入居前からのかかりつけ医を継続している利用者や状態に応じて訪問診療を利用している利用者もいる。基本的に受診は家族が対応しているが、家族の対応が困難な場合は職員が対応している。変化があれば書面で医療機関に情報提供を行ない返書欄を設けて連携を取っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタルや排便、排尿の把握を行い、経過観察や変化があれば医師と連絡をとり、指示を仰いだり受診をしている。(家族とも連絡を密にしている。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の方と病院受診や相談を行っている。入院される場合は基本情報、日々の様子を情報提供している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、早い段階から話をしているが、中には中々決めかねている家族様もいる。事業所で出来る事の説明は行っている。	急変時における対応に関する事は入居時に書面にて家族に説明し利用者・家族の意向を確認している。これまで重度化や終末期の事例は無いが、今後の方針については家族と話し合い受入れを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急ファイルを作成しており、急変時はファイルにて対応し、搬送する際、その日の様子記録を持参している。職員全員が対応できるように取り組んでいく必要がある。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に訓練を行ってる。昼夜想定で短期間に何度も行う必要があると感じている。	年2回、昼間・夜間想定で消防訓練を実施しており、隣接する社会福祉協議会にも事前に訓練を通知をし、社会福祉協議会の駐車場まで利用者を誘導し避難訓練も実施している。台風時には管理者が泊まり緊急非常時に備えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで利用者一人ひとりの状況共有は必ず行う事から名指しを控え番号で申し送りを行っている。	全従業員に虐待等についての研修を受講させ、一人ひとりの尊重について意識づけている。同性介助を基本としているが、利用者の希望や状況に合わせた職員が対応している。一人ひとりに合った対応方法を職員全員で共有しケアの統一を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活スタイルにく沿って支援を行ったり、ケアに当たる際は必ず確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、確認し本人のペースで過ごせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着替えられる利用者様で襟を整えるよう声掛けしたり、職員が直したりしている。自身では困難な方は職員が整髪したり容姿を整えている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は、野菜の下処理や下膳をお願いしている。落ち着いた雰囲気ですぐに食事が摂れるよう環境を整えている。	副食は配達業者の食材を事業所で調理し、主食、味噌汁、副食1品は事業所職員で考えて柔らかく炊く等工夫して調理している。利用者はもやしのひげ取りや下膳を行なう事もある。職員は弁当を持参し、利用者と一緒に食事をしている。BGMを静かに流し利用者と職員が会話を楽しみながら食事している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた、量・形態に配慮し提供している。一日の水分が摂れるよう声掛けなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いせず、タイミングを見て、一人一人に応じた声掛け、対応を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方は時間、パターンを把握し交換している。トイレへ御自身で向かう場合もあるが間隔が長くなる場合は声掛け促している。行かないと言う時があるので様子を見て再度声掛け促しをしている。	個別で行動記録を取り排泄パターンを把握している。排泄意の無い利用者へはトイレが見えやすい席に座ってもらいトイレを意識する事で自主的に排泄ができるように工夫している。また、排泄意の訴えが無い利用者でも表情や行動、パターンで声かけする事により日中トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で及ぼす影響を考え、水分摂取や食物、下剤等を使用し、排便がスムーズになるよう調整している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを見て、入浴に誘っている。時間は決まっていない。手の届くところはご自身で洗ってもらっている。	週2回の入浴を基本としており、利用者の希望や状況に合わせて支援している。音楽をかけた職員と会話を楽しみながら入浴しており、好みのシャンプーを持ち込み使用している利用者もいる。同性介助を基本としているが、利用者の希望や状況に合わせた職員が対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じて、ゆったり休息できるようにしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を職員誰もが確認出来ようとしている。変化があった時は情報の共有、状況観察、医師への連絡を行っている。受診の際に情報提供している。	薬は事務所で管理しており、ケアマネジャーが利用者毎に薬セットをし、当番の職員が受取り食膳の名札を確認してセットしている。服用時は職員が利用者の名前を確認し服用確認をしている。薬の変更がある場合は申し送りノートに記入し職員全員が確認できるようにし、状態を確認し変化がある場合は記録し受診時等に医療機関への情報提供を行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、野菜の下処理を手伝っていただいている。 散歩や諸活動を通して、気分転換をしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や利用者様の状態を見て、声掛けし散歩を行っている。またご家族の協力を得ながら外出、外泊をされている。	日常的に事業所周辺の遊歩道を散歩している。天気を見ながらドライブにも出かけ、利用者の出身地周辺や公園などに出かけている。車いす使用でも外出できるように工夫しており、外出先で利用者がそれぞれ好きな飲み物や食べ物を職員と一緒に選び購入している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金の管理が難しく、家族様からお金を預かり、必要な物は購入する場合がある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが難しく、行っていませんが家族様が時々面会に来ていただけるよう協力をお願いしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、時折々の飾りを用意したり、状況に応じた曲を流している。	共有スペースの居間兼食堂には波型のテーブルを設置し車いすでも座りやすくしている。居間にいる利用者に合わせてテレビをつけたり、音楽を流している。壁には交流のある保育園児からプレゼントされた作品や、季節に合わせた折り紙や利用者が共同製作したちぎり絵等を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、利用者様自身で座ったり、くつろいだりしてる。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を部屋に飾り、暖簾を使用してプライバシーを確保している。	各居室にはベッド、タンス、エアコン、鏡付きの洗面台が設置されている。家族の写真や飾り物を壁に飾ったり、使い慣れた布団や整理ダンス等それぞれ好みの物も持ち込んでおり、利用者に合わせて家具の配置等居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時に危険が無いよう物の配置を変えている。トイレ、各居室には、名前を貼ってある。洗濯物は名前が書かれてあり、たたんで職員とタンスに片付けるようにしている。		